

まちの話題



行政改革大綱の答申である



加藤会長から答申を受けとる坂本町長

南部町の行財政運営の改善について審議していただく行財政運営審議会から3月24日(金)半年の審議を行った結果として答申が坂本町長へ渡されました。

これを受け坂本町長は行財政改革へ不転の決意でのぞむことをあらためて明言しました。

かわいいと好評でした

～赤十字奉仕団活動～

南部町赤十字奉仕団(秦和子委員長)の西伯分団(会員59人)が3月8日(水)つくし保育園にフェルトで作った手作りマスコットをプレゼントされました。マスコットは、くまやうさぎ、かえる、の3種類で129個が秦委員長から「かわいいがってください。」と園児を代表して年長児に手渡されました。かわいいプレゼントに園児は歌を歌ってお礼に代えました。

赤十字奉仕団は、しあわせの花壇の植替えなど年間を通じ奉仕活動を行っています。



どの動物がいいかな

地域協働で子どもの成長を見守る

～第1回南部町生涯学習推進大会～

「今、地域が変わる！学校も変わる？」と題して第1回の南部町生涯学習推進大会が3月4日(土)プラザ西伯で約100人の参加で行われました。開会にあたり坂本町長が「没個性になりやすい世の中で、生涯学習の本質である個人の特性を磨き上げていってほしい」とあいさつ。

大会の初めにはスポーツ・文化の活躍者に対しスポーツ・文化表彰が贈られ、あわせて68の個人、団体が表彰を受けました。受賞者を代表し特別栄誉賞を受けられた郷土史研究の第一人者である杉本良巳さん(鴨部)が「今後へのさらなる励みとします。」と受賞の喜びを話されました。

つづいて、実践発表では会見小学校地域協働学校運営協議会の岡田昌孫会長が、地域の良さを学校教育に活かし、地域と共に歩む開かれた学校作りに向けた運営協議会での取り組みを報告されました。

最後の講演会は島根大学教育学部高岡信也教授が「家庭や地域ができなくなって学校へ投げかけていることを地域協働として取り組む必要がある。」と社会変化をふまえて協働の重要性を訴えられました。



世間力をはぐくむことが求められている

出発進行！

ミニ蒸気機関車を体験

3月19日(日)子育てグループの親子ふれあいサロンと社会福祉協議会の共催で「いこい荘」にミニ蒸気機関車がやってきました。

ミニ機関車は、南部町天萬地内にあるJR西日本米子メンテックに協力してもらい、15人乗りと10人乗りの2台の車両があいみドームの中を走りました。本物と同じように石炭を燃料とし、大人が乗っても十分の力強い走りを披露していました。

当日は用意した200人の入場券がなくなるほどの盛況ぶりです、子どもたちは何度も機関車に乗って喜んでいました。



機関車って楽しいな

インターネットの危険性

人権啓発のつどい



今でもこんなに差別はあるとホームページを紹介

第2回人権問題研究会の「人権啓発のつどい」が3月26日(日)いこい荘で行われ、約80名が参加をし、人権について考えました。

反差別ネットワーク人権研究会代表の田畑重志さん(三重県出身)によるインターネットでの差別事象について講演をいただき、情報化社会のなかで顔が見えない、匿名性の高い世界で誰でも標的にされてしまう怖さ、その対処方法を紹介されました。

インターネット自体は制限、規制はできにくいので差別の根本を規制する法整備が必要と強く訴えられました。

みんなが桜を楽しめるように

第3回ふれあいクリーンウォーク



意外とゴミは落ちているな

春の暖かな陽気のもと、3月25日(土)西伯ボランティア協議会が主催し、約90名の参加者で法勝寺校土手の清掃作業が行われました。

桜のシーズンを控え、訪れる人が桜を気持ちよく楽しんでもらえるようにと2km×4kmの4つのコースに分かれて心地よい汗を流しました。集まったゴミは軽トラックで3台分にもなり参加者はあらためて環境問題について考えました。

地域のつながりを運びます

ふれあいバス開通式

南部町発足前から福祉生活バスとしてスタートした循環バスが3月16日から「ふれあいバス」に名称変更することに對し、前日の15日に開通式が法勝寺庁舎前で行われました。

開通式では助役の挨拶のあと、日ノ丸バス社長から「地域に新しい提案としてのモデルバスになるよう運行していきたい」と挨拶。運転手に町民を代表し南部中学校の生徒から花束が贈られ、安心、安全なふれあいバスの運行が始まりました。



安全運転をお願いします